

ハイツカ湖地域ビジョン基本方針(試行版)へのご意見と回答(公表案)

平成 20 年 6 月 23 日までいただいたご意見は以下のとおり。

委員会審議の叩き台として、以下のとおり回答(公表案)を事務局から提案。

ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会

NO.	ご意見	委員会回答
1	もっと地に足が着いた内容が望ましい。	今後、分科会やリーディングプロジェクト、振り返り等を重ねていく中で、より実現性・継続性の高い内容、取り組みに見直し続けていきます。
2	一般的な言葉、無難な言葉で書くと読んでさえもらえない。人の目を引くために、敢えて造語を使って過激な文面にすべきである。	今後の推進委員会や分科会で取り上げていく事項とします。
3	ハイツカ湖地域の特色は、ダムそのもの、自然そのもの、川そのものではなく、それらが人の生活と密着し、人と自然が共存しているということである。それを表現するために「笑湖」という造語を使用したい。	同上
4	開発を含めない観光と文化が前面に出た内容となっているが、それでは、食えないし、お金にならない。	リーディングプロジェクトの振り返り等を踏まえて、経済性・継続性のある取り組みメニューを多様な主体で検討し設定するための分科会を開催します。
5	この地域は、農業だけでは食べて行けず、今までも兼業で成り立っている。国策として、安定した兼業先の創出が望まれる。それには、福祉施設が有効であると考えているが、他の意見もあると思うので、分科会で議論したい。	今後の分科会で取り上げていく事項とします。
6	基本方針に書かれている内容は、振興区が抱えている問題と異なっている。それぞれの振興区が抱える問題を把握しきれていない。	各振興区が抱える課題について、再度確認し、ビジョンの取り組みによって対応していくものは反映していくこととします。
7	各分科会での活動はそれぞれ行うものとして、各分科会を目的・戦略を持ってつなげることが必要である。	今後の分科会で取り上げていく事項とします。また必要に応じて分科会間の連携について話し合う分科会のリーダー会議等を開催します。

NO.	ご意見	対応案
8	リーディングプロジェクトを試行した後の結果の蓄積やフォローアップが必要である。	試行結果の振り返りや見直しは今後行うことを前提として、ビジョンのメニューづくりを分科会等で立案します。
9	ハイヅカ湖では、小範囲の地域では通用するがインパクトが弱い。エコ（ECO）と掛けて「笑湖」という表現はどうか。ハイヅカ湖地域の特徴は環境との共生なので、エコロジーや笑湖は方針に追加すべき。	推進委員会の協議事項として、議論します。
10	ビジョンの普及を考えた場合、“わ”もよいがエコでつなげてはどうか。	同上
11	「はじめに」の文章が、最初にあると人には読んでもらえない。インパクトを前面に書いて、「はじめに」は「おわりに」にしては。	同上
12	基本方針のキャッチフレーズとなっている「いきいき」はちょっと古さを感じる。	同上
13	表紙は、ハイヅカ湖地域ビジョンをサブタイトルとして、タイトルは「エコ（笑湖）のわづくり」などとしてはどうか。	同上
14	分科会は第1と第4が合体したが、それでも5つもある。限られた人員であるため、3つぐらいに絞ってはどうか。第3+第5、第2+第6としてはどうか。	同上
15	<ul style="list-style-type: none"> ・各振興区の行事予定を串刺しにして、ビジョンに反映してはどうか。 ・事務局として、各振興区の年間行事をまとめたカレンダーを作りたい。 	同上
16	これで良いと思う。	
17	自然環境を基本方針の前面に打ち出していきたいが、地域の人たちの暮らしを優先すべきと考え、あまり環境が大切だとは言にくい。	推進委員会の協議事項として、議論します。
18	イベントが先行しているが、一過性のものが多いため、特産品の開発等、長続きし、地元のためにもよいものがないと思う。	同上